

第6回西尾市はあと在宅ケアチームカンファレンス
子どもたちの力で、地域はもっとつながり合える
～地域から ACP を広める～

2019.10.19

神谷先生

- ・スライドを使った「がん」に関する授業
- ・その後にグループワークに関する説明

→30年後のサザエさん一家をモチーフとしてグループワークを行う～

「波平さんが末期のがんと診断された」

→あなたが、カツオくんだったら、波平さんやフネさんにどんなことがしてあげられるかな？

<ボーイスカウトの皆さんから「いのちの出前授業」の感想>

- ・サザエさん一家を題材にしての内容で、分かりやすかった。
- ・「がん」を知ることができた。病気になる前提で物事を考える必要がある。かかりつけ医をもつ意味や、病院・施設で介護を受けることがどのようなことか分かった。
- ・自分だったらどれだけ家族のサポートができるのか考えることができた。
- ・亡くなる直前には誰しも家族と一緒にいたいという思いが強いのではないかと思った。
- ・自分の家族が、がんになった時には自分はどうすればいいのか考えようと思った。
- ・自分がカツオ君だったら仕事をハナ子さんに協力してもらい、波平さんの介護をしようと思う。
- ・近くにいてあげたい。仕事を休んでサポートしてあげるのがいいと思った。

<会場からの意見・感想>

ケアマネ Sさん

以前、脳にできたがんが増殖して会話や意思決定ができなくなってしまった方がいた。その方に最期はどこで過ごしたいか？など本人に聞けなくなってしまったことがあった。急に病状が進行してしまう病気の方には、特に ACP は必要だなと思いました。

石川先生

事前に色々なコミュニケーションをとっておくと、その人の生き方や人となりに近づくことができる。正解はないがその人の望む結果を選択していくことができるのではないか。どんな些細なことでも患者・家族と会話をしていくことが ACP へつながっていくと思います。

ケアマネ Mさん

訪問看護やケアマネとして係わるとき、ご家族と話していて家族の中でも本人に関する情報収集ができていないことがよくある。急に病気になってから話し合うのではなく、普段からこのような話をできるような町づくりができればいいと思います。子どもたちに出前授業を行う活動は素晴らしいと思いました。

小学校・校長先生

子どもたちがどんな反応をするのかを中心にみさせていただきました。内容は中学生向きかなあと。小学生に伝えていくには言葉を平易にして、サザエさん一家のシチュエーションをもっと簡単にすることで伝わりやすいと思いました。小学生は介護のこともまだよくわからないと思います。まず福祉体験学習を先に行ってから、出前授業を行ったほうがいいのかと思います。

宮崎先生(西尾市医師会副会長)

子どもたちががんを分かりやすく伝えるのは難しい。スライドの内容を少しずつ改善していく必要があるだろう。在宅のことを子どもたちはわからないので、出前授業で伝えることは大事です。私も禁煙外来を行っていますが、タバコを吸わないための防煙教室を小学校で行っています。子どもにタバコの害を教えると祖父母・両親へ効果が波及されます。子どもたちへ出前授業をするというプロジェクトはとてもおもしろいので応援していきたい。しかし、難しい内容があるので授業をもう少し練っていった方が良く思う。

米津先生(西尾市医師会会長)

私の祖母が亡くなったのは私が22才でした、祖父は30才のときでした。その時に自分がどのように関わったかを思い出しながら聞いていました。人間の死亡率は100%です。死というのは当たり前のことですが、身内やサザエさん一家を通して「死」に関して中学生・小学生に伝えていくということは壮大なテーマだと思いました。応援していきたいと思いません。